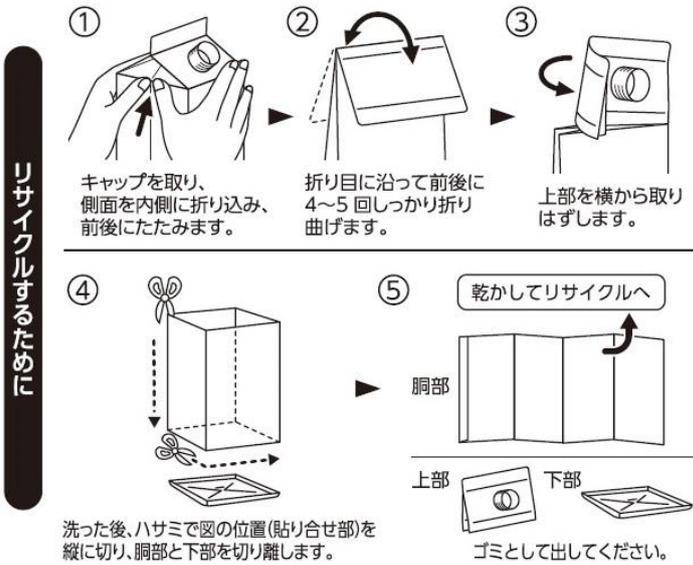


受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<p style="text-align: center;">平成26年度 内閣総理大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞</p>	受賞者名	宝酒造株式会社
	所在地	京都府京都市
	受賞テーマ	「容器の3Rにリフューズ(Refuse:発生回避)を加えた4Rの取り組みの推進」
	1. 活動継続 あり	
	【リフューズ】	1998年に開始した「焼酎のはかり売り」に継続して取組んでいる。 1998年の開始以来2017年3月末迄に、ペットボトルを2.7ℓペットボトル換算で約866万本、段ボールを約217万枚を節約した。
	【リユース】	国内リユースシステムを維持するため、一升びんのP函出荷を継続。また、主力製品である宝焼酎「純」、宝焼酎「レジェンド」720mlびんをリターナブルびんに変更し、2017年3月末現在累計約9500万本のリターナブルびん(洗い壺)を購入・使用している。
	【リデュース】	調味料の1ℓペットボトルを12%(33g→29g)、缶チューハイの350mlアルミ缶を8%(17.6g→16.2g)軽量化するなど、容器の軽量化を継続して進めている。
	【リサイクル】	「はずせるキャップ」や「パウチパック」を採用した商品を継続販売。
	【工場の副産物・廃棄物び再資源化】	工場から出る蒸留副産物や原料粕、汚泥、動植物性残渣、ガラスや金属くずなどの副産物、廃棄物の有効活用に努め、2016年度は再資源化率96%を達成。
	【環境教育】	2004年にNPO法人日本環境倶楽部と共同で作成した、子供向けの環境教育教材、飲み物容器のリサイクルを紹介した絵本「宝酒造リサイクルロード」の累計配布部数は、2017年3月末現在約22,200部となった。
	2. 活動の広がり あり	
	【環境教育】	2012年より開催している、ごみ問題の現状やごみを減らす方法について親子で学ぶ、宝酒造「エコの学校」を2016年度は京都、神戸、東京都江東区、名古屋の4都市に拡大し、参加人数も約200名に増加した。2017年度も引き続き4都市で開催する予定。
	3. 活動の進化 あり	
	【リサイクル】	2016年7月、松竹梅「京のあまくち」2ℓ紙パックに、キャップがある頭部と胴部の間にミシン目の加工を施し使用後の解体を容易にした新紙パック容器「EP-PAK オルカット」を採用（右図及び次頁の図参照）。
		

酒パックは良質なパルプを使用しています。リサイクルにご協力ください。

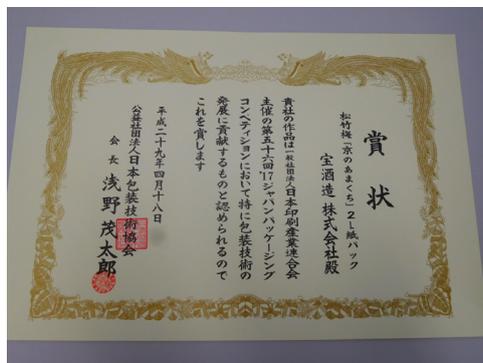


【他の表彰の受賞履歴】

- 2017年、松竹梅「天」エコパウチが「容器包装簡素化大賞2017」で特別賞を受賞



- 2017年、松竹梅「京のあまくち」20紙パックが「2017JPC(ジャパンパッケージコンペティション)」で日本包装技術協会賞を受賞



4. 今後の計画

リユースに関する新たな取組みとして、NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone と協働して、祭りやイベント等での容器のリユースに関する新しい社会貢献活動を企画、今夏より実施予定。また、この活動は当社以外の企業へも参加を呼び掛ける予定。

【表彰概要】

同社は、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなど様々な容器に充填して販売している。これらの商品の中身が消費されたあとに発生する空容器が社会に大きな環境負荷を与えていることから、同社では空容器問題への取り組みを自然環境保護と並ぶ環境活動の2本柱と位置付け、長年にわたり継続して取り組んでいる。

例えば、1989年に日本で初めてステイオンタブ(SOT)を採用、1994年に主力商品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドをリターナブル化、1998年に焼酎のはかり売りを開始しており、これらは現在も継続して実施している。

商品開発では、リデュース、リユース、リサイクルの3Rに、同社独自の取り組みとして、余分なもの(容器)を買わず必要なもの(中身)だけを購入するリフューズを加えた4Rの取り組みを「環境に配慮した商品開発のための指針」に基づき進めている。

【リフューズ】

1998年から、新たな容器を使用せず中身だけを購入する「焼酎のはかり売り」を開始した。

1kℓと200ℓのはかり売り専用タンクを開発し、工場での専用タンクに焼酎を詰めて販売店に直送する形で実施している。消費者は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、販売店でその容器に消費者が必要な分だけ詰めて購入する仕組みである1998年の開始以来2014年3月末迄に、2.7ℓペットボトル換算で約752万本と段ボール約188万枚を節約している。

【リユース】

一升びんの使用は国内トップクラス。国内リユース・システムを維持するため、P函出荷を堅持(一部例外あり)。また、主力製品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドの720mlびんをリターナブルびんに変更し、2014年3月末現在、累計約9,300万本のリターナブルびん(洗い壺)を購入・使用している。

(右の写真はP函。びんを良い状態で回収するために採用している。)



【リデュース】

あらゆる容器のリデュースを継続して進めている。2002年度に宝焼酎2.7ℓ<エコペット>*を、2003年度に宝焼酎「純」720mlリターナブルびんを軽量化した。さらに、2004年度には「タカラ有機本みりん」に従来のものと比べ約3割、約100gも軽い“超軽量ガラスびん”を採用した。その後も、種々の容器の軽量化に継続して取り組んでいる。

* 宝焼酎2.7ℓ<エコペット>は、1998年に酒類業界で初めてPETボトルリサイクル推進協議会の第二種指定PETボトルの自主設計ガイドラインに完全対応した商品である。

【リサイクル】

1999年から、本みりんや料理用清酒に使用後の分別リサイクルが簡単にできる機能をもった「はずせるキャップ」を採用した。タカラ本みりん「醇良」は、酒類・調味料製品で初めて「はずせるキャップ」を採用した商品である。

2007年に、清酒の外装フィルムにトウモロコシでんぷんを原料とする生分解性プラスチックを清酒業界で初めて採用した。

2011年に、清酒松竹梅「天」に、飲み終わった後に手軽に丸めてコンパクトにしてリサイクルに出せるパウチパックを採用し、その後も対象を他のアイテムに拡大している。

【工場の副産物・廃棄物の再資源化】

工場から出る蒸留副産物や原料粕、汚泥、動植物性残渣、ガラスや金属くずなどの副産物、廃棄物の有効活用に努め、再資源化率98%を達成している(2012年度実績)。

【環境教育】

2004年にNPO法人日本環境倶楽部と共同で子供向けの環境教育教材、飲み物容器のリサイクルを紹介した絵本「TaKaRa リサイクルロード」を作成し、全国の小中学校の希望者や同社が出展する環境イベント等にて無償で配布している。隔年でデータを更新し、現在は第6版。発行部数は延べ26,000部で累計配布部数は21,000部となっている。

2012年より、ごみ問題や容器の4Rについて、リサイクル体験など親子で楽しく学ぶ、宝酒造「エコの学校」を開催している。

2014年度は京都市、神戸市で計4回の開催を予定。京都開催では、京都市が後援、京エコロジーセンターの協力で開催している。

また、神戸開催は、神戸市との共催となる。今後、開催都市や開催回数を増やしてくる計画である。



■日本で初めてとなるステイオンタブ採用

1989年に日本で初めて、スポーツドリンク「PADI」に缶からタブ（引き金）が外れないステイオンタブを採用した。それまでの飲み口から外れるプルタブで問題となっていたポイ捨てによるタブの散乱や動物のタブ飲み込み被害の防止に役立った。



■焼酎のはかり売り

量り売り用の専用タンクはステンレス製で何度も繰り返し使用することが可能である。空になった専用タンクは工場に戻され、洗浄した上で焼酎を再充填し、再び販売店に送られる。

量り売りを実施している販売店は全国で159店舗（平成26年9月現在）あり、同社ではさらに増やすための活動を継続している。

